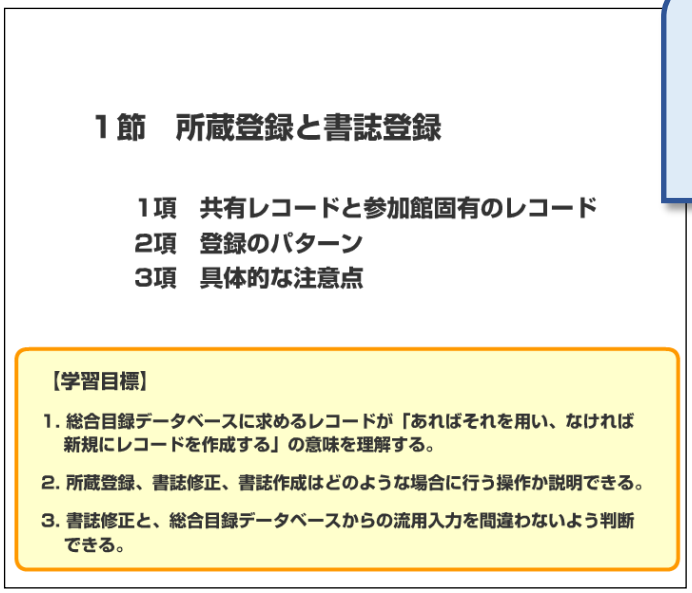
1 節　所蔵登録と書誌登録



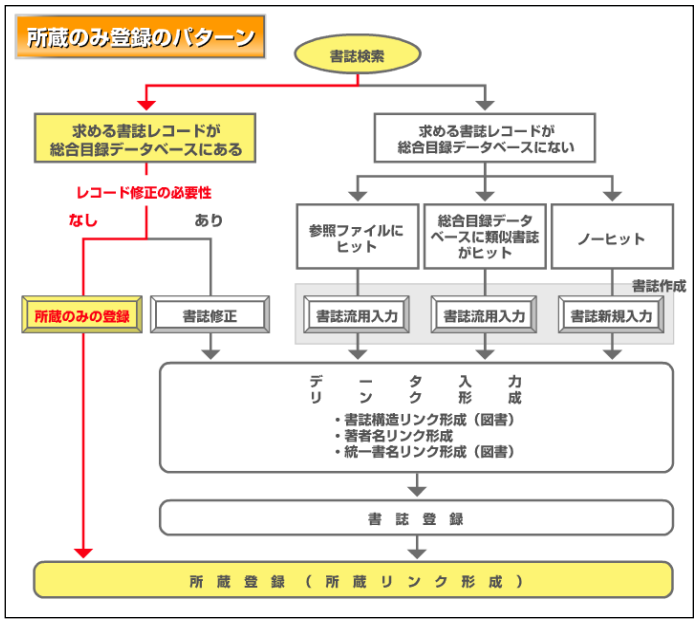
CAT2020 運用開始以降は、
　レコード ⇒ データ
　ファイル ⇒ データセット
と読み替えてください。

1項　共有レコードと参加館固有のレコード

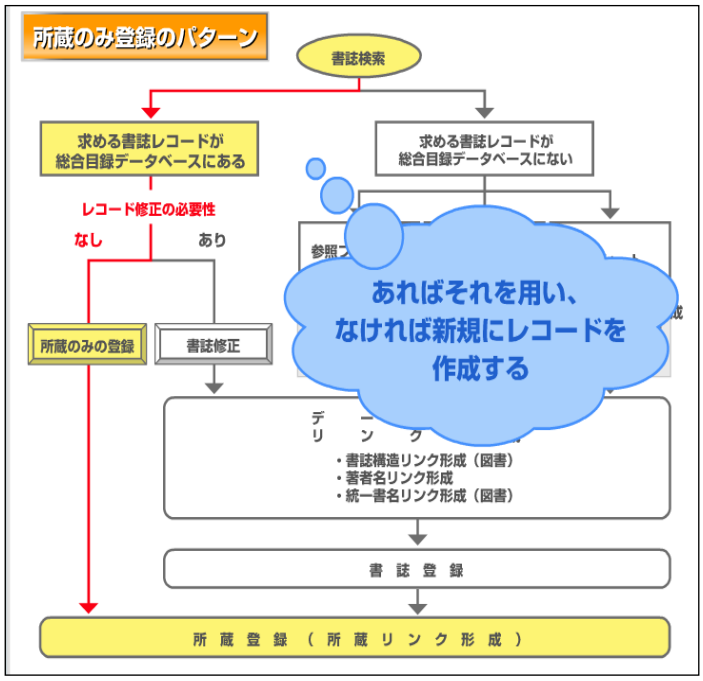
総合目録データベースのレコードには、共有レコードと参加館固有のレコードがあります。
このことは、「NACSIS-CAT 入門」で学習しました。復習すると次のようになります。
書誌レコードや、典拠レコードは共有レコードです。従って、参加館の都合により、重複したレコードを作成したり、修正をしてはいけません。
一方、所蔵レコードは参加館固有のレコードです。それぞれの参加館の責任により、作成・管理することになります。書誌登録は共有レコードの登録で、所蔵登録は固有レコードの登録です。この違いをしっかり確認しておきましょう。
次に、この考え方に従って、登録のパターンを見てみましょう。

1 節　所蔵登録と書誌登録

2項　登録のパターン

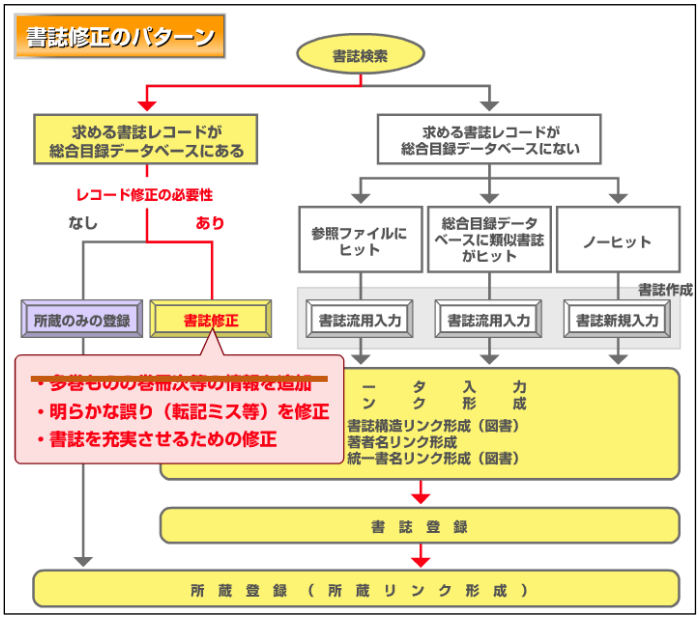


登録のパターンはこの図のようになっています。
求めるレコードがあるかないか、どのファイルに登録されているのか、修正は必要か、という条件によって、登録の種類が分かれます。
まず最初に書誌検索を行います。その結果、求める書誌レコードが総合目録データベースにあり、レコード修正の必要性がない場合は、所蔵登録のみを行います。



NACSIS-CAT では、総合目録データベースに求める書誌レコードが「あればそれを用い、なければ新規にレコードを作成する」のが基本の考え方です。
求める書誌レコードが総合目録データベースにあり、一部修正の必要性がある場合は、書誌の修正をし、書誌登録、更新してから所蔵登録を行います。これが「書誌修正」のパターンです。
具体的には次のようなケースです。

1 節　所蔵登録と書誌登録



求める書誌レコードが総合目録データベースにあり、一部修正の必要性がある場合は、書誌の修正をし、書誌登録、更新してから所蔵登録を行います。これが「書誌修正」のパターンです。

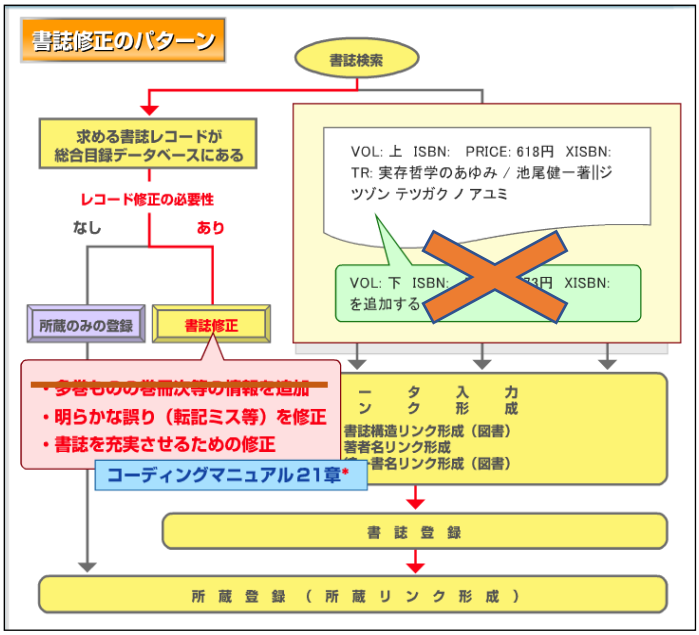
具体的には次のようなケースです。

~~・多巻ものの巻冊次等の情報を追加~~

・明らかな誤り(転記ミス等)を修正

・書誌を充実させるための修正

VOL グループ繰り返しの禁止
→コーディングマニュアル
2.0.3A 出版物理単位



修正作業の可/不可
→コーディングマニュアル
21.0B 図書書誌データ修正指針

~~例えば下巻を登録しようとして、書誌検索の結果、上巻に対するデータがヒットした場合です。上下は「固有のタイトル」ではありませんので、新たに別の書誌レコードを作成してはいけません。~~

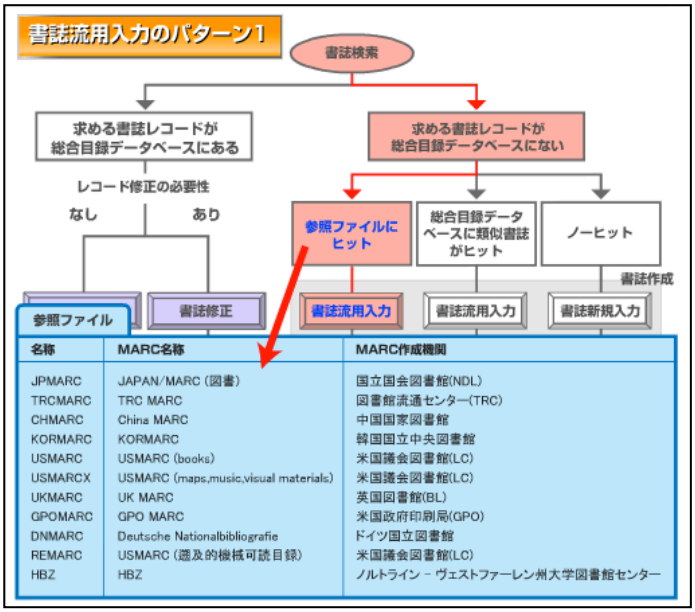
~~この書誌レコードを修正し、1つの書誌レコードに、複数の出版物理単位を VOL フィールドの繰り返しで表現します。~~

~~他にも、~~明らかな間違いを発見した場合や、書誌をより充実させるための修正を行うこともあります。

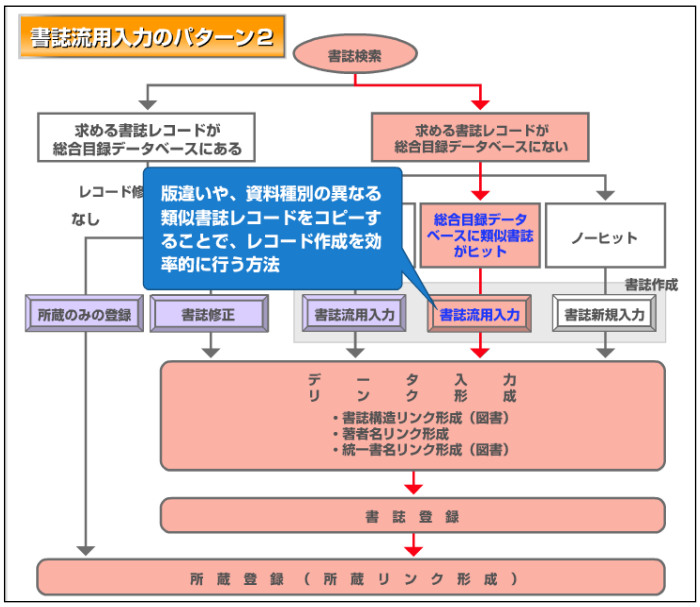
既存の書誌を修正することは、慎重に行わなければなりません。

コーディングマニュアル 21 章の「図書書誌レコード修正」にそのルールが示されています。

1 節　所蔵登録と書誌登録

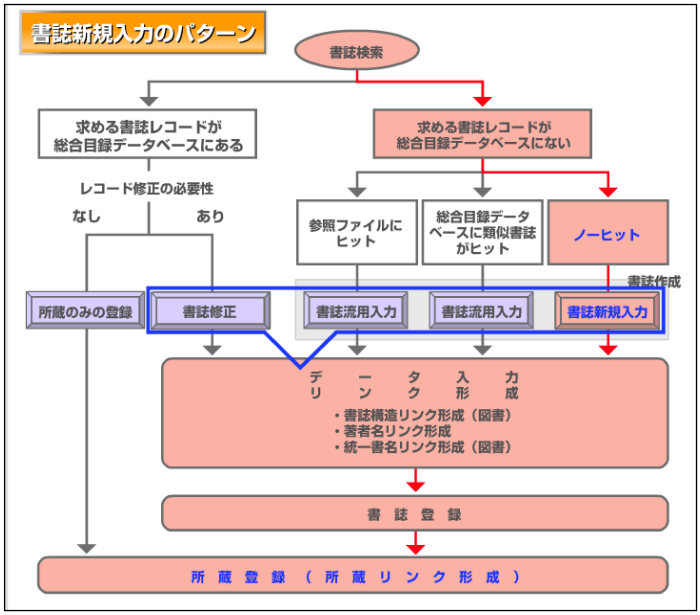


では、求める書誌レコードが総合目録データベースになかった場合はどうでしょうか。
書誌検索の結果、総合目録データベースにはなく、参照ファイルにヒットした場合、参照ファイルの書誌を流用して書誌登録を行います。
図書の場合、ここにあげた参照ファイルが用意されています。
総合目録データベースに書誌レコードを新たに作成する時に、参照ファイルにヒットした書誌をコピーすることで入力作業を軽減することができます。
参照ファイルは、各 MARC 作成機関の規則に従って作成されていて、必ずしも NACSIS-CAT と同じルールではありません。
従って『目録情報の基準』等 NACSIS-CAT の規則に則ったレコードにしなければなりません。



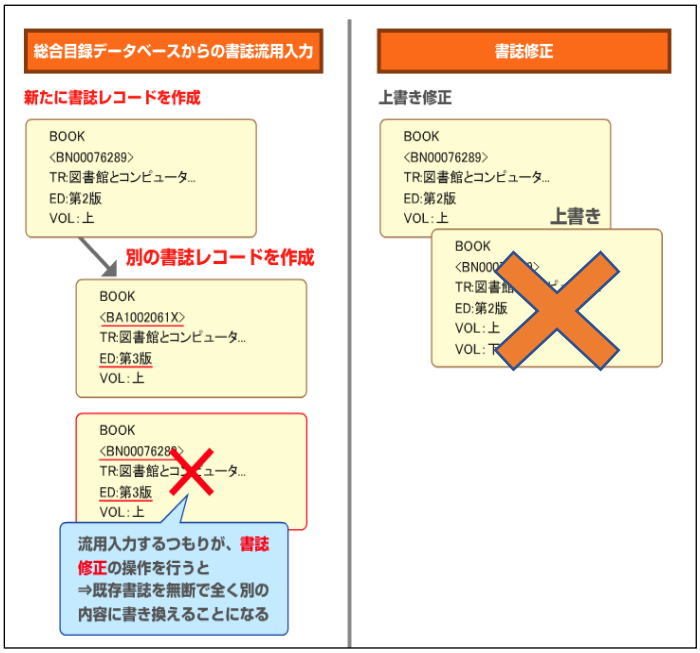
書誌検索の結果、求める書誌レコードが総合目録データベースにはなく、版や資料種別の異なる書誌レコードがあれば、その類似書誌レコードをコピーして新たに書誌レコードを作成することも可能です。
これを総合目録データベースからの「書誌流用入力」といいます。

1 節　所蔵登録と書誌登録

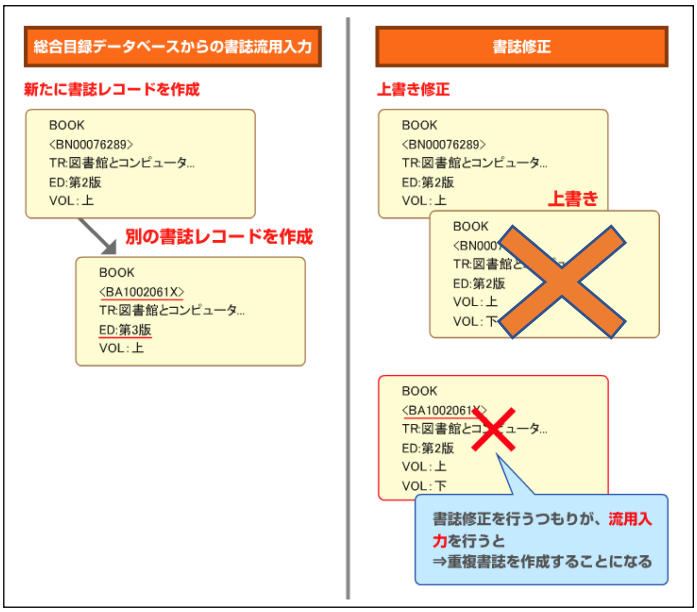


求める書誌レコードが総合目録データベースになく、さらに参照ファイルや総合目録データベースの類似書誌もヒットしない場合には（ノーヒット）、書誌を新規に作成することになります。
このような書誌修正、書誌流用入力や書誌新規入力の操作には、「データ入力」と「リンク形成」が含まれます。
最後に、書誌登録を行った場合は、必ず「所蔵登録」を行います。

3項　具体的な注意点



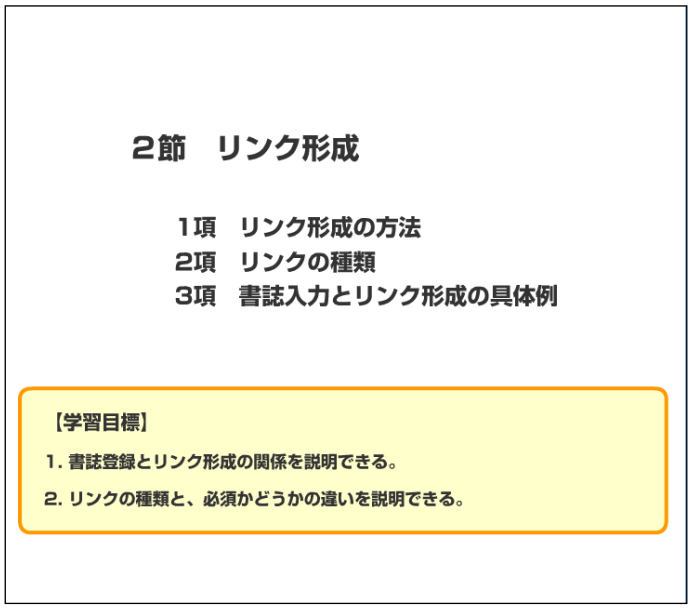
登録の際、「総合目録データベースからの書誌流用入力」と「書誌修正」は、操作を間違いやすいので注意しましょう。
図は「図書館とコンピュータ　第2版」を例に、書誌流用入力と書誌修正の違いを示しています。
書誌流用入力では，新たに書誌レコードを作成します。このとき間違って書誌修正を行うと既存の書誌を無断で全く別の書誌に書き換えることになります。
既にあった第 2 版の書誌レコードはなくなって、第 3 版に上書きされてしまうことになるのです。



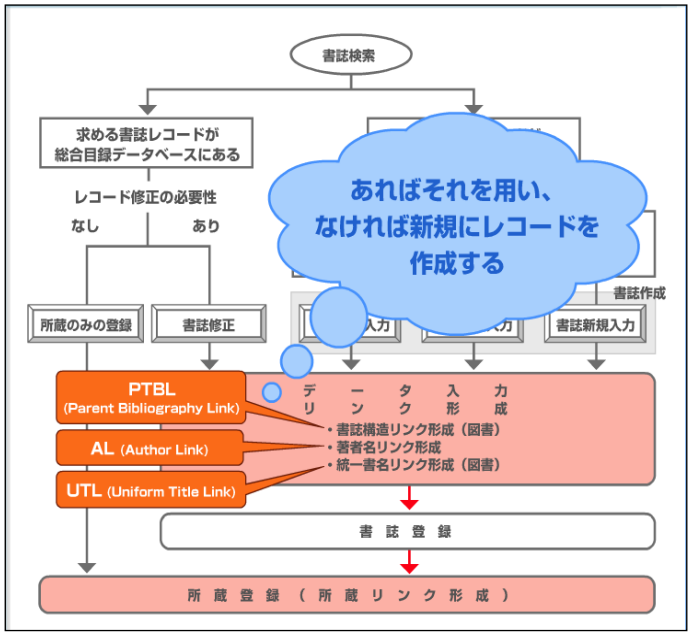
一方、書誌修正は、上書き修正することです。書誌修正を行うつもりが、間違って流用入力を行うと、重複書誌を作成してしまうことになります。
つまり、「図書館とコンピュータ第 2 版」の書誌レコードが 2 つできてしまうのです。
書誌レコードは共有レコードですから、重複レコードを作成したり、既存のレコードを別のものに上書きすることのないよう注意しなければなりません。

VOL グループ繰り返しの禁止
→コーディングマニュアル
2.0.3A 出版物理単位

2 節　リンク形成



1項　リンク形成の方法



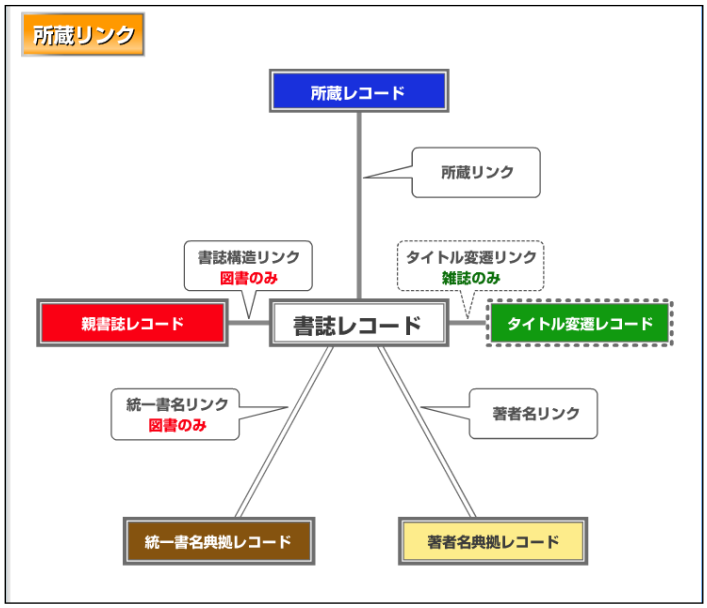
書誌レコードからのリンク形成の操作は、通常、リンクブロックのフィールドに入力する時に行います。

書誌レコードのリンクブロックのフィールドとは、PTBL（Parent Bibliography Link）書誌構造リンク、AL（Author Link）著者名リンク、UTL（Uniform Title Link）統一書名リンクの各フィールドです。

具体的には、リンク先レコードを検索して、あればリンクを形成します。リンク先のレコードは共有レコードなので、ここでも「あればそれを用い、なければ新規にレコードを作成する」ことが基本です。

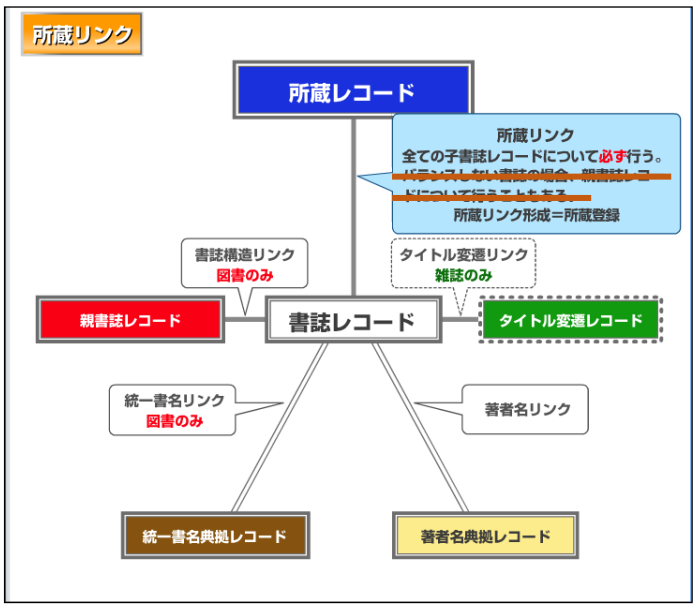
書誌レコードからのリンク形成のうち、「所蔵リンク形成」とは「所蔵登録」の操作のことを指します。

2項　リンクの種類



書誌レコードとのリンク関係には、以下の 5 種類があります。

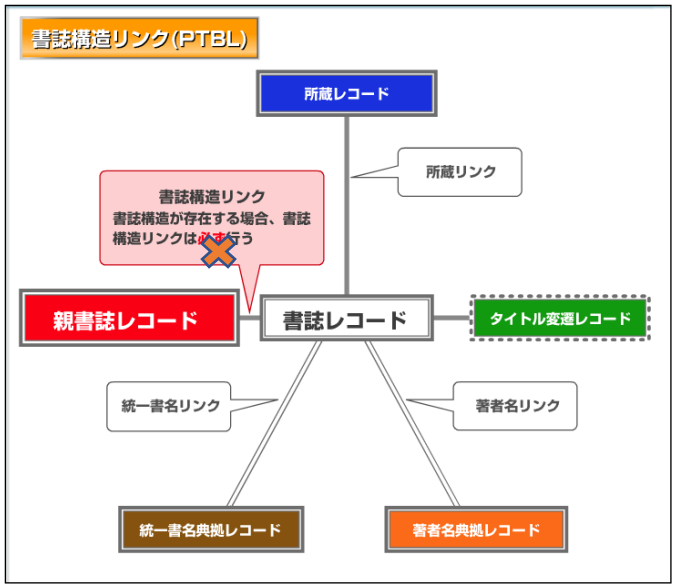
- 所蔵リンク
- 著者名リンク
- 書誌構造リンク
- 統一書名リンク
- タイトル変遷リンク



書誌構造リンク、統一書名リンクは図書のみに関するリンク関係で、タイトル変遷リンクは雑誌のみに関するリンク関係です。
所蔵リンクは全ての子書誌レコードに対して必ず行います。~~また、親書誌レコードが出版物理単位を表現しているバランスしない書誌構造の場合には、親書誌に対して行うこともあります。~~

図書所蔵データ
→『目録情報の基準』第 5 版
5.3 図書所蔵データの構成と記述規則

2 節　リンク形成

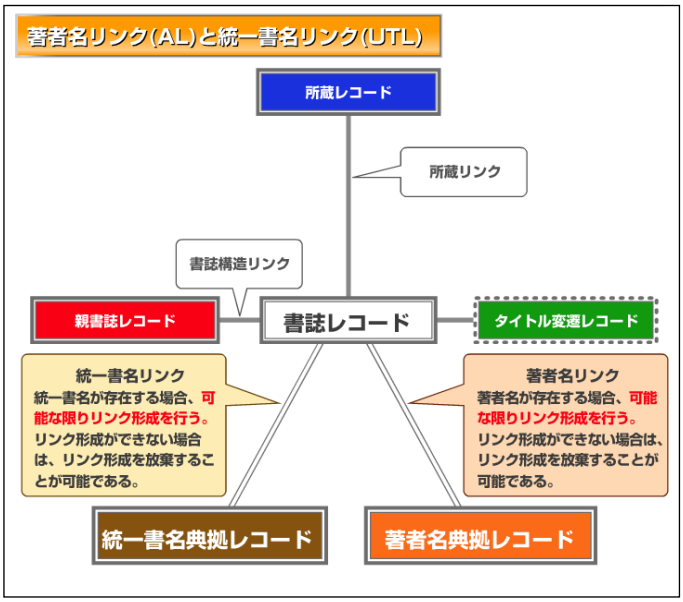


~~書誌レコードを登録する際、書誌構造が存在する場合には、必ず親書誌レコードに対して書誌構造リンク形成を行わなければなりません。~~

リンク形成する場合には、

もしリンク先の親書誌レコードが総合目録データベースになければ、先に親書誌レコードを作成してから、リンクを形成することになります。親書誌レコードを作成する際にも、参照ファイルを利用することが可能です。また、親書誌レコードについても重複書誌を作成しないよう、作成の前には充分な検索が必要です。

書誌構造リンクの任意化
→『目録情報の基準』第 5 版
4.3.1 書誌構造の表現

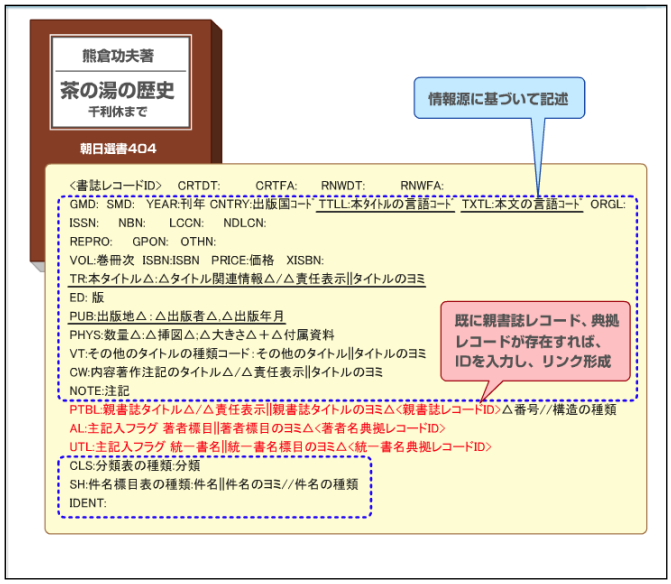


著者名リンクは著者名典拠レコードに対して、統一書名リンクは統一書名典拠レコードに対して、可能な限りリンク形成を行います。

リンク形成ができない場合は、リンク形成を放棄することが可能~~であるところが、書誌構造リンクと異なる点~~です。

2 節　リンク形成

3項　書誌入力とリンク形成の具体例

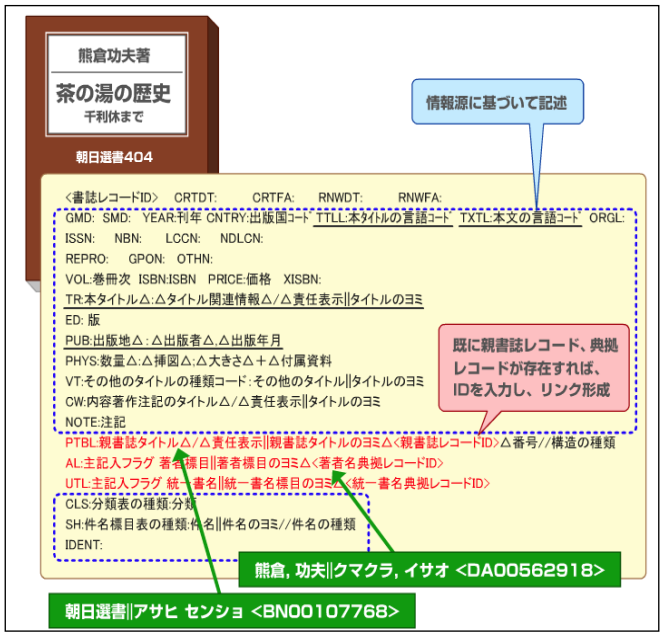


具体例でみてみましょう。熊倉功夫著『茶の湯の歴史』（朝日選書 404）という書誌を登録する場合、次のように行います。

ここにあげたフィールドに書誌事項を入力していきます。黒で示したフィールドはそれぞれ情報源に基づいて記述します。下線の 4 つのフィールドは必須項目です。

赤で示した PTBL, AL, UTL のフィールドに関しては、既に親書誌レコードや典拠レコードが存在すれば、その ID を入力し、リンク形成します。

この例ではまず、親書誌レコード「朝日選書」が存在しているか検索し、あればリンク形成します。~~もしなければ、書誌構造リンクは必須ですから、親書誌レコードを作成した上で、リンク形成を行います。~~ **CAT2020 以降、書誌構造リンクは任意になりました。ただし、リンクを放棄する場合にも、PTBL フィールドに「朝日選書」と番号 404 を入力します。**

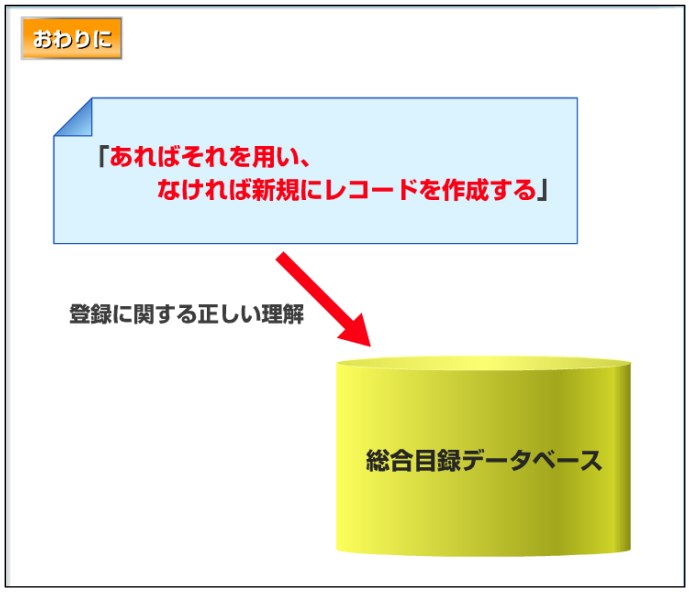


また AL フィールドでは、著者名典拠レコードを検索し、該当するレコードがあればリンク形成します。

同定できるレコードがなかった場合、新たに著者名典拠レコードを作成するか、もしくは、著者名典拠レコードとのリンク形成は任意ですので、リンク形成を放棄します。ただし、放棄する場合は、著者名の標目形である熊倉，功夫とそのヨミを入力するなどデータの整備を行います。

このように、 書誌登録は、個々のフィールドへの「データ入力」と、他のレコードとの「リンク形成」の操作であるといえます。

おわりに



具体的な登録の操作は、各図書館システムによって異なりますが、考え方は一緒です。
最初に説明した「あればそれを用い、なければ新規にレコードを作成する」と覚えておきましょう。
総合目録データベースは、参加館の登録作業の積み重ねで豊かなものになっていきます。
ここで学習したように、手順は難しいものではありません。正しい理解の上に、積極的な登録をお願いいたします。